

カイロ水週間2023・国連水会議 ID3 フォローアップセッションにおける 上川大臣基調講演(ビデオメッセージ)

御参加者の皆様、

日本国外務大臣の上川陽子です。本日、ビデオメッセージの形ではありますが、基調講演の機会をいただき光栄です。まず、エジプト・アラブ共和国水資源灌漑大臣のハーニー・スウィラム閣下の暖かいご招待に感謝申し上げますとともに、カイロ水週間の成功裏の開催を心からお喜び申し上げます。

カイロ水週間は、私が親愛なるスウィラム大臣とともに共同議長を務めた本年3月の国連水会議2023のフォローアップを行う大事な場です。この貴重な機会に、水が直面している危機、そして我々の迅速な行動の必要性について、改めて強調したいと思います。

皆さま、水は、この惑星の全ての生命が共有している、基本的で不可欠な財産です。しかし、その水は、今まさに危機に瀕しています。多くの水に関する目標とターゲットに向けた歩みは驚くほど軌道から外れています。

この背景には、人類が、水はもとより、気候変動や生物多様性といった多くの分野でプラネタリー・バウンダリーを越えそうになっているという事実があります。これらは相互に連関もしています。気候変動の悪影響は、洪水、渇水、水環境の悪化を通じて、地球上のあらゆる場所に及んでいます。

この流れを逆転させなければなりません。スウィラム博士と共同議長を務めた国連水会議の「テーマ別討議3(ID3)」では、まさにこれらの課題解決に向けた議論を行いました。ここでは、その際の基本的な考え方を三点改めて紹介したいと思います。

第一に、早期警戒システムなどの有効な対策のためには、科学的なデータと、それらデータの集約・分析に関するオープンで統合された全球的なプラットフォームが必要だということです。

第二に、効率的な投資のためには、気候変動の緩和策・適応策双方に資するような、複合的な便益を有する対策が重要ということです。制度面でのサポートも必要になります。

最後に、人材、特に次世代の人材の能力育成が必要だということです。データや分析結果を意思決定者、関係者そして普通の人々とつなげるファシリテーターも必要です。データと現場をつなげる「エンド・ツー・エンド」なアプローチも大切です。

そして、国連水会議では、この三点の考え方の下で、エジプトの「AWaRe」を含め、多くの国から具体的な解決策、実現可能なアクションやコミットメントが数多く示されました。いずれも、国連としての「水アクションアジェンダ」の枢要を占めるものです。今後、こうした取組がしっかりと実施されていくことが極めて重要です。

日本は、多くの国や国際機関と連携し、「熊本水イニシアティブ」をはじめとする水の改革につながる様々な取組を通じて、これらの達成に向け行動します。

このイニシアティブは、気候変動の緩和策・適応策の両方を目指す取組に着目するものです。例えば、高度な水文気象予報を活用すれば、水のさらなる有効活用を通じた、温暖化ガス排出を最小限としたエネルギー生産が可能になります。

さらに、日本は、衛星データの活用にもつなげた技術開発と人材育成や、水分野の課題解決に資する質の高いインフラ投資も進めます。

そして、これらの施策の実施に当たっては、後発開発途上国(LDC)や小島嶼開発途上国(SIDS)、女性や子供、若者や高齢者、障がいがある方や先住民族など、脆弱な立場の人々に焦点を当てながら取り組めます。

皆さま、私たちが今行動しなければ、次の世代は深刻な環境被害に直面することになります。

地球を救うための手法は、小さな集落を救うための手段とよく似ています。破局点を予測し、それを防止または回避する手段や対策を組み合わせ、統合的に、一つ一つ進めていくのです。

皆で力を合わせ、実現しましょう。特に、ナイルの恵みにより今なお世界に誇る古代文明を築き上げたエジプトは、水資源の重要性を誰よりも理解していると思います。エジプトの引き続いてのリーダーシップに期待しています。

誰一人取り残さず、望ましい未来のために、水を通じてすべての目標とゴールを達成できるよう、力を合わせましょう。

ありがとうございました。